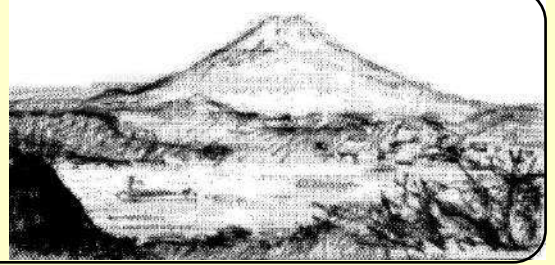


かけはし

昭島市立富士見丘小学校 令和 4 年 1 月 25 日
校長だより No. 20 稲垣 達也



冬の最後を締め括る、寒さが最も厳しい「大寒」。この寒が明ければ、春の始まり「立春」を迎え、冬の極みは過ぎ去り、春へと進む季節です。今年は2月4日(金)、新入生保護者説明会があります。

ピッカピカの園児たちが入学に向けて大きな希望を膨らませています。富士見丘小の児童たちも、この2ヶ月は1年間の総まとめと、進級・進学に向けた大切な時期です。春はもうすぐそこ。

私たち大人も、教育とは何か、子育てとは何か、今、見つめることが大事な時期かなと思います。

教育の原点を考えるヒント

大村はま『優劣のかなたに』

明治39年横浜市に生まれ、子供たちに「学ぶこと」、「教え育てること」と真摯に向き合い、52年間教壇に立ち続けた国語教師。鋭い言語感覚と独創的な教材で、戦後の国語教育の基礎を築いた。

見るに見かねる

(子どもが)投げやりな気持ちを見せてたり、あきらめたような、これから何十年と人生を生きる人と思えないような、退廃的な顔つきとか目つきを見ますと、私、とてもそれを見てることができないんです。…見るに見かねるということでしょうか。それでまあとびつくという感じで、身も寄せましたし、いろんなことを、これでもかあれでもかとか何かしたのです。それを考えるときに、それがいい方法なのか、だめなのか、とか、あまりそういうことを考えていたのではないのです。わるくてもよくてもしょうがないんですね。…知恵の限りをしばって、短い時間に胸をドキドキさせて、手を打ちますね。…そういうところから方法というものは生まれてきたんですね。(「はまゆう」第18号より)

私に似なさい

範を示すということが嫌いになったのか、非常にしなくなりましたね。…昔は、「私に似なさい」ぐらいの気持ちでやっていたんですから。

今は、「私に似なさい」なんていう態度はいけないことみたいになっていますけれど、だから子どもはどっち向いてやったらいいか、わからないのではないのでしょうか。

(『教師 大村はま 96歳の仕事』より)

子どもたちが参るような

女の先生だと思ってばかにして騒ぐというようなとき…「静かにしなさい」とか「何しているんですか」とか、そういうことを言ったのではだいたいだめなんです。そういう子どもはもう知らぬ顔をしておくのがいちばんよくて、そういうときには、クラスには必ずしっかりした子どもたちがおりますから、そのしっかりとした、それも男の子たちに着目して、その子どもたちが参るような、ほんとうのいい授業をすることなんです。

そうしますと、その子どもたちが満足を感じますね。そうするとその子どもたちが必ず騒ぐ子どもたちを静めてくれるものなのです。なにを言ってくれるというのでなく、雰囲気騒げなくしてしまうといった方がいいかもしれません。騒ぐほうをいっしょうけんめいしかって、ヒステリーみたいな声を出してやりますと、そのしっかりとした男の子たちが、つまらなくなり、…そむいていくわけです。(『国語教室の実際』より)

気がすまないのです

生徒というものは、先生を試すものです。…

…先生をいびって、快感をおぼえたいという欲望があってやったことなのですから、こっちは多少傷つかないと、気がすまないのです。…

ちょっと傷ついてやってください。具体的には、ちょっと見るといいのです。こわい顔はしないで、ちょっと見るんですね。多少傷ついたということ、ちょっと知らせて、そしてあとは知らん顔すればいいのです、それ以上のことはありません。

…学習記録なんか、骨が折れるでしょう。カタカナで「オオムラセンセイシネ」と書いてあったことがあります。(『教室に魅力を』より)

教師の資格

「研究」をしない教師は「先生」ではないと思います。まあ、今.ではいくらか寛大になって、毎日でなくてもいいかもしれないとも思ったりしますが……。子どもというのは「身の程知らずの伸びたい人」のことだと思うからです。……一步でも前進したくてたまらないのです。そして、力をつけたくて、希望に燃えている、その塊が子どもなのです。……研究をしていて、勉強の苦しみと喜びをひしひしと、日に日に感じていること、そして、伸びたい希望が胸にあふれていることです。私は、これこそ教師の資格だと思います。（『教えるということ』より）

『一番の恩師』

（作者不詳 ごめんなさい忘れました）

博愛の心がありながら、小学校の女教師トムプソン先生には、お荷物になる「いやな子」という生徒が何人かあります。とくに、ジム・ストッダードという子は、他の子とけんかしたり、だらしない格好をしたりして、困りものです。徐々に、ジムとの関係は悪くなりました。とうとう、先生は彼の答案の間違いに大きなバツを付けることや、彼を不合格とすることに、うっすら喜びさえ感じ始めました。

ある時、トムプソン先生は、クラスの一同の成長記録を調べねばなりませんでした。ジムのことを調べる段になって、先生は驚きで背筋がピンと伸びました。1年のときの記録に「ジムは活発な生徒で天真爛漫な笑顔を見せる。宿題も完璧にこなし、行儀もよい」とあるではありませんか。2年生の記録は「ジムは優秀な生徒でクラスの皆から人気がある。けれどもお母様が不治の病に侵されているので家庭生活では苦労があるようだ」となっています。引き続き年度を追って、まもなく母親の死があり、多忙な父親1人で少年のケアが困難なことが書かれ、次いで、ジムが無気力で注意散漫になったことが記録されています。

トムプソン先生は問題に気づき、自分自身を恥じました。

クリスマスがやってきて、生徒たちはいつもどおり先生にプレゼントを届けました。列を作って1人1人きれいな包み紙とリボンの飾りの贈り物を手渡します。ジムの番になって先生は、また気まずい思いをしました。ジムのものはスーパーの包み紙を裏返して包んでありました。中からは石が欠けたブレスレットと、中身が4分の1だけ残っている香水ビンが出て来て、生徒たちは笑い始めました。けれども先生は、大きな声で話し始めました。

「なんて素敵なブレスレット！ 着けてみようかしら。香水もいい香り！ 手首に着けたいわ。」

ジムはその日授業のあと、教室に残って先生に言いました。

「トムプソン先生、今日、先生は昔ママがしていたのと同じ香りがします。」

子供たちが下校してから、先生は一時間以上泣き続けました。その日から先生はただ読み書きや算数を教えるのを止め、その代わりに物事の意味、人の気持ちや主義や信条を子供たちに教えるようになりました。さらに特別にジムの面倒をみるようにし、勉強も教えました。そして学力は回復し、反応もきびきびして来ました。その年の終わりにはジムはクラスでもよくできる生徒の一人になりました。

1年経って、先生は偶然ジムのノートのページを覗くことがありますが、そこには「トムプソン先生は今までに会った最高の先生。」と書かれていました。また6年経って、ジムは先生を訪れ、3番の成績で高校を終えたことと、いまだにトムプソン先生が一番の恩師だということを報告しました。その後大学卒業のおりにも、ジムからの手紙があり、「まもなく主席で卒業します。私の1番の恩師が先生であることに変わりありません。」と書かれていました。

次の4年が過ぎると、大学の学位を取った後もう少し勉強を続けることにしたとの内容に、いつもの賛辞が付いた手紙が届き、サインは今までより長く、「ドクター・ジェームズ・F・ストッダード、M.B.」とサインされていました。

結婚式のおりにも先生のところ招待状が届きました。この日先生は、あのクリスマスのときの母親を思い出させるブレスレットをし、香水をつけることを忘れませんでした。再会の抱擁のおり、ドクター・ストッダードは先生の耳元でささやきました。

「先生、私のことを信じてくださってありがとうございました。先生は、私が大切な存在だと感じさせてくださり、また別の道を示してくださいました。」

トムプソン先生は目に涙を浮かべながら、お返しにささやきました。

「ジム、違うわ。私にもうひとつの道を示してくれたのはあなたの方よ。あなたに出会うまで私はものの教え方を知らなかったもの。」

初めから立派な大人はいません。けれど、教師に失敗は許されません。恩師と呼ばれる仕事がしたいですね。

子供は未来の守護者

校長 稲垣 達也

御入学の季節が近づいてまいりました。学校では、皆様が不安なく入学の日を迎えられるように準備をすすめています。御家族全体で感染症予防を徹底するなど、入学までの日々を健康に過ごし、4月6日（水）入学式、お子さんがにこやかな笑顔で校門をくぐることを、教職員一同、心よりお待ちしております。

本校の教育目標

安全はすべてに優先する

一人に一つ命 大切に！

子供たちが安全で、安心した学校生活を送ることが最重要です。子供の生命を、すべてに優先させます。

- ◎ よく考える子
- 思いやりのある子
- 健康な子
- すすんで働く子

自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子
認知機能を高め、自分も他の人も尊重し、敬意をもって大切にできる心豊かな子
基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身共に健康で活力に満ちた子
未知の課題を思索し、新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子

子供は未来の守護者

子供は未来の守護者です。未来社会を担い、社会を形成していくのは、今の子供たちに他なりません。その子供たちを育てる仕事は、未来からの負託であり、私たち大人は教育の結果に責任をもたなければなりません。それは、学校教育も、家庭教育も同じです。

子供叱るな 来た道だもの 年寄り笑うな 行く道だもの
来た道 行く道二人旅 これから通る今日の道 通り直しのできぬ道

作者不詳

国家百年の計は教育にあり

「教育は国家百年の大計」とも言われ、教育は、目先の成果を追うものではなく、長期的視点で遠くに目標を据えて行うものです。私たち大人は、自らの教えがすぐに成果となって表われることを期待するのではなく、時を経て子供が成長した暁に実を結ぶように、教育を実践することが大事です。

学力の高い子供

子育ては、あせらず、あきらめず、のんびりと。

本を読む子、新聞を読む子、朝食を食べる子、テレビ等の視聴や携帯電話等の使用時間が短い子、同じ時刻に寝起きしている子、忘れ物をしない子、これらの子供たちは学力や運動能力が高い傾向にある、という調査結果があります。しかし、「毎日朝食を食べれば学力が上がる」というわけではありません。これらに共通することは『子供の自律的な生活習慣』です。もちろん、子供の自律/自立と称して、親が子育てを放棄する口実にはなりません。このことは、「過保護」と「過干渉」の違いとも言えます。

子育て四訓

乳児はしっかり 肌を離すな 幼児は肌を離せ 手を離すな
少年は手を離せ 目を離すな 青年は目を離せ 心を離すな

作者不詳

子どもが育つ魔法の言葉

ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著 石井千春訳 (PHP)

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる
親が他人をうらやんでばかりいると、子どもも人をうらやむようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思うしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる 広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ 愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる 見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

心の発達の基本

講演「虐待を受けた子供の理解と対応について」（子どもの虹情報研修センター 研修課長 中垣真道氏）より

年代に応じて身に付きやすい心の働きがある。
 日々の体験の積み重ねで、心の働きを身に付けていく。
 見たもの、聞いたもの、感じたもののすべてが体験となる。
 心が発達・成長すると安心、喜び、満足などの心地良い感覚を得ることが上手になる。

私を守ってくれる人
 親子の愛着関係
 心の絆が結ばれている

心豊かな育ち

親が不適切なモデル
 叱られて育つ
 過度な溺愛と過干渉

虐待的な育ち

- 注目と安心
常にアイコンタクト
- 協働と自信
わー、できたネ！
- 共感と喜び
ママー、すごいでしょ！
- 豊かな感情を共有
いっしょに喜び 心がつながる



- 放置と不安
スツホ依存 授乳枕
- 支配と恐怖
親の顔色をうかがう
- 齟齬と忍従
- 圧迫感と絶望感
子供は親を喜ばせる道具にすぎない
私が苦しいと、親が喜ぶ



大人から与えられてきたもの

愛情の蓄積が、安心に！！
安心の成長サイクル

良いものをもらい損ねて
 不適切なものを与えられてきた
ベースの感情が‘コワイ’

将来 いいことがあそう！
 ピンチの時に、安全地帯で落ち着きを取り戻し
 元気が回復し、ふたたび冒険・挑戦に出かける
 という裾野の広がりがある
 甘えることでエネルギーを補充！！

子供がピンチの時に、
 逃げ道を断って 弱音を吐かせず
 必死に挑戦させ 成功するまで許さない
 甘えを許さずに突き放し
 成功するまで受け入れない

子供は **すごい！すごい！！**
ワクワクしている！！
主体的
 ⇒ **挑戦の基盤、成長につながる**

子供は **ヤバイ！ヤバイ！！**
脅迫的に頑張ってしまう
受動的
 ⇒ **恐怖心から、結果を出す**

子供にとって、親は困ったときに救って
 くれる絶対的な味方である。

子供にとって、親は困ったときに
 さらに怒ってくる敵対的存在。
 期待や約束を裏切られる。
 周囲は敵ばかり。全部おれが悪い。
 どうせ無駄。俺はバカ。

**嬉しいことは倍返し
 苦しいことは半分こ**
本校が目指す教育の姿

成長の崩壊

※ 本校では、このような考えのもと、教職員一同、責任をもってお子さんをお預かり致します。